

いたしたいと思ひます。奮つて御賛同あらんことを切望します。

日本母性保護會々則

- 第一條 本會ハ日本母性保護會ト稱ス
- 第二條 本會ハ道府縣其ノ他ニ道府縣其ノ他ノ母性保護會ヲ置クコトヲ得
- 第三條 本會ハ事務所ヲ厚生省人口局母子課内ニ置ク
- 第四條 本會ハ本邦母性ノ健康ヲ増進シ健全ナル次代國民ノ増強ヲ圖リ以テ我カ民族力ヲ強化スル事ヲ目的トス
- 第五條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ如キ事業ヲ行フ
 - 一 母性健康指導並ニ其ノ促進
 - 一 戰時母性保護ノ強化促進
 - 一 母性知識ノ普及宣傳
 - 一 妊婦奉仕診察
 - 一 其ノ他本會ノ目的達成ニ必要ナル事業

- 第六條 本會々員ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 正會員 産婦人科醫及本會ノ事業ニ關係アル醫師
 - 賛助會員 本會ノ事業遂行ニ關シ賛助ヲナスモノ
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 理事 若干名 (内一名ヲ理事長トス)
 - 評議員 若干名
 - 幹事 若干名
 - 監事 二名

本會ニ名譽顧問、顧問、參與及參事各若干名ヲ置クコトヲ得

理事、評議員ハ總會ニ於テ決定ス

理事長ハ理事會ニ於テ決定ス

名譽顧問、顧問、參與及參事ハ理事會ニ於テ推挙又ハ委嘱ス

幹事ハ理事長之ヲ委嘱ス

監事ハ評議員會ニ於テ決定ス

第八條 理事長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理シ且役員會及總會ヲ招集ス

理事ハ理事長ヲ補佐ス

評議員ハ本會ノ重要事項ヲ審議ス

幹事ハ理事長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

第九條 顧問ハ會ノ諮問ニ應ジ參與ハ會務ニ參與シ參事ハ會務ニ參畫ス

第十條 監事ハ會計ヲ監査ス

第十一條 役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ゲズ

第十二條 本會ハ適時總會ヲ開催ス

第十三條 本會ノ經費ハ寄附金及補助金ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 本會會計ハ總會ニ於テ報告スルモノトス

第十五條 本則ハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

武道綜合團體財團法人大日本武徳會の設立

厚生省人口局に於いては昭和十六年十一月練武課を設置以來、新設同課を中心として武道綜合團體の結成に努力してゐたが、そのため特設せらるゝに到つた國民體力審議會中の武道部會は「現下の時局に鑑み武道綜合團體の組織に關する具體的方策如何」の諮問に答へて武道綜合團體組織要綱を決定答申、右要綱に基き

今昭和十七年三月二十一日財團法人大日本武徳會の結成を見るに到つた。組織要綱及び大日本武徳會規定を掲ぐれば以下の如くである。

國民體力審議會武道部會所屬委員氏名

(○印は特別委員)

- 南 郷 次 郎
- 森 山 銳 一
- 林 銑 十 郎
- 宮 村 才 一 郎
- 留 岡 幸 男
- 東 龍 太 郎
- 今 松 治 郎
- 湯 澤 三 千 男
- 宮 本 武 之 輔
- 荒 木 貞 夫
- 木 内 四 郎
- 德 永 榮
- 小 笠 原 道 生
- 高 木 正 得
- 伊 藤 精 司
- 岡 村 勝 實
- 千 葉 胤 次
- 平 泉 澄
- 河 原 春 作
- 田 中 隆 吉
- 永 岡 秀 一
- 龜 山 孝 一
- 大 塚 惟 精

○久富達夫

入江俊郎

桂廣太郎

川西實三

朝比奈策太郎

○井上幾太郎

○菱刈隆

菊池豊三郎

○小山松吉

植芝盛平

高野佐三郎

安倍能成

羽生隆

澤木興道

○中村敬之進

武井群嗣

○奈良武次

武道綜合團體組織要綱

- 一、新に設立せらるべき武道綜合團體は政府の外廓團體として厚生、文部、陸軍、海軍、内務五省共管の下に政府の武道施策に協力し其の方針を體し武道振興に關する諸事業を擔當實施するものとし政府は克く民間の熱意と知識經驗とを此の團體に動員し以つて官民一體の實を學ぶるものたるべきこと
- 二、本團體に於て取扱ふ武道の種類は當分の内劍道（薙刀を含む）柔道、弓道、銃劍道、射道とすること
- 三、武道綜合團體には總裁を奉戴し會長は内閣總理大臣副會長は厚生、文部、陸軍、海軍、内務大臣並に

民間學識經驗者一名合計六名とすること

四、武道綜合團體は既存武道團體を包攝し本邦に於ける最高唯一の武道綜合團體として速に其の組織内容を整備すること

五、武道綜合團體成立と共に學徒體育振興會（武道關係）は其の内部組織たるべきこと

六、武道綜合團體は地方に支部を設け地方長官（朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋廳に在りては當該關係官）を支部長とし官民協力して政府の武道方針を全國に具現せしむること

七、武道綜合團體は其事業遂行に關係ある諸團體と緊密なる提携連絡を保持すること

八、政府は武道綜合團體に對し毎年相當額の補助金を交付し其活潑なる活動を助成すること

九、武道綜合團體は在外武道團體との關聯に付き適當考慮すること

大日本武徳會設立に際し梨本宮殿下より賜りたる令旨

令旨

茲ニ武道團體ノ綜合成リ余ハ其ノ總裁トシテ親シク諸子ト相見ルヲ欣ブ

惟フニ我が武道ハ肇國ノ當初ニ淵源ヲ發シ文教ト共ニ皇道ヲ振起シ皇國ノ護持發展ヲ日標トス皇國臣民タル者ハ武道ヲ修鍊履踐シ以テ忠勇義烈ノ國民的氣魄ヲ鼓舞振勵スルト共ニ節義廉恥ノ志操ヲ涵養シテ武道ノ眞諦ヲ國民生活ニ具現シ一旦緩急ノ際ハ一死以テ皇恩ニ報ゼザルベカラズ

今ヤ皇國ハ大東亞戰爭ノ完遂ニ國ヲ擧ゲテ邁進シツツ

アリ諸子深ク斯ノ情勢ヲ洞察シ協心戮力一層奮勵努力シ以テ武道ヲ振興シ國威ノ宣揚ニ貢獻セムコトヲ望ム

昭和十七年三月二十一日

大日本武徳會總裁 大勳位 守正王

奉答

武道綜合團體結成式ニ當リ畏クモ 總裁宮殿下ノ台臨ヲ辱ウシ且優渥ナル令旨ヲ賜フ 英機等一同恐懼感激ノ至ニ堪ヘズ將來益々協心戮力本會使命ノ達成ニ努メ以テ 令旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

英機 一同ニ代リ謹ミテ奉答ス

昭和十七年三月二十一日

財團法人 大日本武徳會會長 東條英機

財團 大日本武徳會寄附行為

（昭和十七年四月一日）
（厚生省京大第一四三號認可）

第一章 總則

第一條 本會ハ皇族ヲ奉戴シテ總裁トス

第二條 本會ハ財團法人トス

第三條 本會附行爲ハ理事會及評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ノ允裁ヲ得タル後主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

前項ノ議決ハ理事會又ハ評議員ノ三分ノ二以上出席シ出席員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス 但シ評議員會ニ在リテハ書面ヲ以テ意見ヲ述べ出席ニ代フルコトヲ得

第二章 目的及事業

第四條 本會ハ武道ノ振興ヲ圖リ皇國民ノ鍊成ニ資スルヲ以テ目的トス

第五條 本會ニ於テ取扱フ武道ノ種目ハ劍道(薙刀ヲ含ム)、柔道、弓道、銃劍道、射擊道トス

第六條 本會ハ第四條ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一 武道ノ普及徹底ニ關スル事項

二 武道指導者ノ養成並ニ地位ノ向上ニ關スル事項

三 武道ノ稱號、段級及資格ノ審査ニ關スル事項

四 武道専門學校ノ經營ニ關スル事項

五 武道ノ諸行事ノ開催、統制及指導ニ關スル事項

六 京都ニ於ケル武德祭舉行ニ關スル事項

七 武道ノ調査研究ニ關スル事項

八 古武道ノ保存並ニ振興ニ關スル事項

九 武道施設並ニ資材ノ整備ニ關スル事項

一〇 武道功勞者ノ表彰ニ關スル事項

一一 其ノ他本會ノ目的達成ニ必要ナル事項

第三章 名稱及事務所

第七條 本會ハ財團法人大日本武德會ト稱ス

第八條 本會ハ事務所ヲ當分ノ内東京市麹町區大手町

一丁目七番地厚生省内ニ置キ出張所ヲ京都市平安神

宮境内ニ置ク

第四章 資産

第九條 本會ノ資産ハ左ノ如シ

一 恩賜金

二 政府又ハ公共團體ヨリ交付セラレタル補助金

三 基本金其ノ他本會所有ノ動産及不動産

四 有志者ノ寄附ニ係ル金員及物品

五 本會ノ事業及所有財産ヨリ生ズル收入

第十條 恩賜金ハ永久之ヲ保存シ其利子ヲ基本金ニ編

入ス

第十一條 基本金ハ國債又ハ地方債ニ換ヘテ之ヲ保存

ス 但シ評議員會ノ議決ヲ經テ政府ノ監督及保護ヲ

受クル特種ノ銀行又ハ會社ノ債券ニ換フルコトヲ得

基本金ハ本部專屬各支部專屬學校專屬ニ區分シ相混

同スルコトヲ得ズ

第十二條 現金ハ確實ナル銀行ニ預ケテ之ヲ利殖ス

利益ヲ生ズベキ不動産ハ適宜ノ用法ニ從ヒ其ノ利益

ヲ收得ス

第五章 會員

第十三條 本會ノ會員ハ左ノ三種トス

一 名譽會員 理事會及評議員會ニ於テ推薦シタル

者

二 有功會員 本會ニ功勞アリタル者

三 正會員 本會ノ趣旨ニ贊同シ武道ヲ修鍊スル

者

第十四條 本會ニ入會セントスル者ハ本部又ハ支部ニ

入會申込ヲ爲スベシ

第十五條 會員ニハ會員證及徽章ヲ交付ス

有功會員ニハ有功章ヲ授與ス

會員證及各種徽章ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 退會セント欲スル者ハ本部又ハ支部ニ其ノ

旨ヲ届出ツベシ

會員タルノ體面ヲ汚ス者ハ除名スルコトアルベシ

第六章 役員

第十七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 一名

一 副會長 六名

一 參與 若干名

一 理事長 一名

一 理事 若干名

一 監事 若干名

一 評議員 若干名

一 幹事 若干名

第十八條 會長ハ内閣總理大臣ノ職ニ在ル者ニ總裁之

ヲ委嘱ス

會長ハ會務ヲ總理ス

第十九條 副會長ハ厚生大臣、文部大臣、陸軍大臣、

海軍大臣、内務大臣ノ職ニ在ル者及學識經驗アル者

一名ニ總裁之ヲ委嘱ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ會長ノ指名

シタル副會長ニ於テ其ノ職務ヲ代理ス

第二十條 本會ニ顧問若干名ヲ置キ關係大臣及學識經

驗アル者ノ中ヨリ總裁之ヲ委嘱ス

顧問ハ重要事項ニ付會長ノ諮問ニ應ス

第二十一條 參與ハ關係廳官吏及學識經驗アル者ノ中

ヨリ會長之ヲ委嘱ス

參與ハ本會ノ重要方策ニ參謀ス

第二十二條 理事長ハ理事ノ中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

理事長ハ本會ヲ代表シ且會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ執行

ス

第二十三條 理事ハ關係廳官吏及學識經驗アル者ノ中

ヨリ會長之ヲ委嘱ス

理事ハ會務ヲ掌理ス

理事中常務理事若干名ヲ置キ會長之ヲ委嘱ス

第二十四條 監事ハ關係廳官吏及學識經驗アル者ノ中

ヨリ會長之ヲ委嘱ス

監事ハ本會ノ財務ヲ監査ス

第二十五條 評議員ハ關係廳官吏及學識經驗アル者ノ

中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

第二十六條 幹事ハ關係廳官吏及學識經驗アル者ノ中

ヨリ會長之ヲ委嘱ス

幹事ハ理事長ノ命ヲ承ケ事務ヲ處理ス

第二十七條 役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ゲズ

官吏ニシテ役員タル者ノ任期ハ其ノ在職期間トス

補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スルマデ仍其

ノ職務ヲ行フモノトス

第七章 事務局
第二十八條 本會ノ事務ヲ處理スルタメ事務局ヲ設置

ス

事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八章 部會

第二十九條 本會ノ事業ヲ遂行スル爲部會ヲ設置ス

部會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 大日本學徒體育振興會

第三十條 本會ハ大日本學徒體育振興會ヲ其ノ内部組

織トシ學徒ノ武道ニ關スル事項ヲ掌ラシム

第十章 會議

第三十一條 會議ハ理事會及評議員會トス

理事會ハ理事長之ヲ招集シ其ノ議長トナリ評議員會

ハ會長之ヲ招集シ其ノ議長トナル

第三十二條 評議員會ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ事項

ヲ議決ス

一 豫算及決算ニ關スル事項

二 資産ノ管理及處分ニ關スル事項

第三十三條 理事會ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ事項ヲ

議決ス

一 評議員會ヨリ委任セラレタル事項

二 會長ニ於テ重要ト認メタル事項

第三十四條 會議ノ議事ハ出席員ノ過半数ニ依リテ之

ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一章 委員會

第三十五條 本會ニ各種專門委員會ヲ設置ス

專門委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二章 會計

第三十六條 本會ハ評議員會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ

設クルコトヲ得

第三十七條 本會ノ豫算ハ毎年度開始前ニ評議員會ノ

議ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ毎年度終了後速ニ作製シテ

監事ノ意見ヲ附シ評議員會ノ承認ヲ受クルモノトス

第三十八條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ

翌年三月三十一日ニ終ル

第三十九條 本會ノ經費ハ左ニ掲ゲタルモノヲ以テ支

辨ス

一 補助金

二 寄附金

三 事業收入

四 基本金ノ利子

五 其ノ他

會計年度ノ終リニ於テ剩餘金アルトキハ之ヲ翌年度

ニ繰越ス但シ評議員會ノ議決ニ依リ其ノ一部ヲ基本

金ニ編入スルコトヲ得

第十三章 支部

第四十條 本會ハ道府縣並朝鮮、臺灣、樺太、關東州、

南洋廳其ノ他必要ナル地區ニ支部ヲ置ク

支部ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第四十一條 本會ニ包攝セラルル武道團體ハ左記事項

ヲ具備シタル申請書ヲ提出シ本會ノ承認ヲ受クベシ

一名稱

二 事務所

三 目的及事業

四 資産

五 役員名簿

六 會員名簿

七 武道場其ノ他ノ施設

八 其ノ他必要ナル事項

第四十二條 包攝團體ハ別ニ定ムル規程ニ從ヒ重要事

項ニ關シ本會ノ統制ヲ受クルモノトス

第四十三條 包攝團體ノ會員ハ本會ノ會員トス

第四十四條 本會附行爲ノ施行ニ必要ナル規程ハ理事

會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×